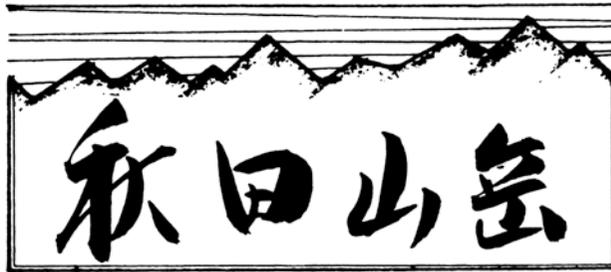


2019



令和元年 11月 発行

No. 114

社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市 泉菅野
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX 018 (823) 2708

発行 秋田支部
編集 鈴木裕子

支部設立 60 周年記念祝賀会

日本山岳会秋田支部設立六十周年記念祝賀会を開催

鎌田 倫夫

十月十九日(土)

乳頭温泉郷鶴の湯温泉別館「山の宿」で祝賀会が開催された。古野淳本会長、東北各支部と静岡支部から二十七名、秋田支部は二十七名の計五十四名参加し、午後二時に開会。

はじめに、鈴木裕子支部長から設立六十周年を迎えるに当たり、歴代の支部長への感謝と、支部の現状と今後の支部運営へのご指導ご鞭撻、より一層の協力依頼の挨拶があり、続いて物故会員へ黙祷が捧げられた。

設立会員を代表して、支部名誉顧問である長岩嘉悦永年会員が挨拶の中で、支部設立の経緯等を話された。

古野淳会長からお祝いの言葉をいただき、山岳会の現状と今後の目標についてのお話があった。秋田支部と親しく交流のある、韓国山岳会旧元老会や慶南支部、中華民国山岳協会からの祝詞を披露され、地元仙北市の倉橋典夫副市長から歓迎のご挨拶をいただいた。その後、支部の略史について佐々木民秀顧問から日本山岳会初の地区集会是昭和五十七年にこの鶴の湯温泉に宿泊し、駒ヶ岳であったこと等を含め、支部の歴史を語られた。

講演は「山岳信仰と温泉」と題して、講師は鶴の湯温泉代表取締役会長である佐藤和志副支部長。鶴の湯温泉に関わる神社のご神体のことや、温泉を経営することになった経緯等を、ユーモアを交えながらのお話であった。記念撮影後に鶴の湯温泉本館へ移動。

懇親会は本館大広間で午後六時三十分から開催。今野昌雄顧問の挨拶に続いて、東北各支部を代表して佐藤一夫福島支部長から祝辞をいただき、今年永年会員になられた奥村清明会員の発声で懇親会が始まった。



講師の佐藤和志副支部長

懇親会は、鶴の湯温泉の美味しい料理が会を盛り上げて延々と続き、堀井弘副支部長のお開きの一本締めをした後、二次会を談話室に移したが、席が足りないくらい参加者で、翌日の山行が不安になるほど盛り上がり、二度もストップをかけ、午後十時十五分、お開きとした。

二十日(日)

前日の雨から天気は快晴に変わり、最高の山行日となりとなった。鶴の湯温泉駐車場でコースについての説明を行い、Aコース・大白森へ三十七名、Bコース・小白森山へ四名が、

八時二十分出発。

先頭は安藤委員と熊谷委員、中間は三浦眞六委員、佐藤博委員、三浦昭男委員、最後尾を鎌田が担当した。登り始めてから二時間、疲れが見えて来た参加者もおり展望台で休憩する。鶴の湯温泉で待機している鈴木支部長に携帯電話で状況報告をする。

紅葉は四日前の下見に登った時より進んでいる。前日の雨で泥濘が数か所あり、参加者は苦労していた。

大白森山頂部

十時四十五分 小白森山到着。天候次第ではここでの折り返しも考えていたが、全員大白森へ行く気満々の様子。



最後尾が大白森に到着したのは十一時四十五分であった。八幡平・岩手山・乳頭山・少し雲に隠れている秋田駒ヶ岳などの眺望が出来、草紅葉が最盛期である。今野昌雄顧問が山々の説明、佐々木民秀顧問が木道から離れている三角点の位置の説明をしていた。

木道に腰を下ろし昼食タイムとする。十二時十五分、下山開始。数日前に刈り払われた笹竹に足を取られ、注意しながらの下山は時間を要した。

鈴木支部長から、Bコース参加者無事下山したとの連絡があった。全員無事に鶴の湯温泉に到着したのは十五時三十分であった。

秋田支部設立六十周年記念祝賀会の挨拶

支部長 鈴木裕子

記念すべき六十周年を迎え、皆様と共に、お祝いできますことを嬉しく思います。

秋田支部は昭和三十四年六月二十八日に、設立会員二十六名の内、十八名の方々が出席し、本会の三田幸夫副会長をお招きして、秋田魁新報社の講堂において設立致しております。

初代支部長は荒巻廣政先生です。

祝賀会には、設立会員である長岩嘉悦永年会員にご出席をいただいております。設立会員である保坂隆司永年会員、進藤昭永年会員は、諸般の事情でご出席は無理でしたが、ご祝詞をいただいております。

秋田支部が今日を迎えることが出来たのも、荒巻初代支部長はじめ、歴代支部長、多くの先輩会員のご尽力があつてこそであります。支部設立六十周年記念事業としては、前年度から秋田県内の山に登る「六十座ラリー」をはじめ、六月には「おらほの山」である「太平山集中登山」を行い、山頂で本会山行委員会の方々と交流をいたしております。九月には、四十周年に記念事業として日本一低い「明田富士山」に植樹した桜の標柱の建て替えを行っております。現在の秋田支部は、会員の減少と高齢化、その他の問題を抱えながらも、支部山行や個人山行、会報「秋田山岳」、「支部だより」の発行、公益的の事業として、市民登山へのサポート等の派遣、太平山歩道整備に取り組んでおります。

山を楽しみながら、身の丈にあった運営に取り組んで、七十周年を目指して参ります。

支部運営へのより一層のご指導、ご鞭撻をあらためてお願い申し上げます、私の六十周年記念の挨拶といたします。

令和元年十月十九日

参加者 五十四名

- | | |
|------|---|
| 本会 | 古野淳会長 |
| 青森支部 | 中村勉 須々田秀美
尾崎史明 西館尚美
平尾勝美 小倉一友
小倉雅子 中村 仁
中村ひとみ |
| 岩手支部 | 阿部陽子 高橋勇一 |
| 宮城支部 | 森美枝子
富塚和衛 草野洋一
千葉正道 太田 正 |
| 山形支部 | 鈴木理夫 野堀嘉裕
安井康夫 田邊信行
佐藤一夫 小林正彦 |
| 福島支部 | 三瓶恵子 菊池道彦
力丸美智子 |
| 静岡支部 | 大島康弘 |
| 秋田支部 | 長岩嘉悦 佐々木民秀
奥村清明 福田光子
田口善信 佐藤和志
今野昌雄 柳田勇悦
若月 寿 鈴木裕子
堀井 弘 鎌田倫夫
佐藤博 高橋忠雄
鈴木美代子 川口廣志
石川祐子 柴田 勲
三浦眞六 佐々木長秀
佐々木悦子 安藤金栄
熊谷光子 後藤浩二
三浦昭男 |
| 会員家族 | 柳田ルイ子 鈴木時雄 |

皆様のご協力により、祝賀会、懇親会、山行の諸行事を無事に終えることが出来ました。ありがとうございました。ありがとうございます

支部長 鈴木裕子

ご芳志

- | | |
|-----|---|
| 一万円 | 古野淳本会長 |
| 五千元 | 鈴木要三 |
| 清酒 | 仙北市長 柳田勇悦
青森支部 岩手支部
宮城支部 山形支部
福島支部
田邊信行(越後支部)
太平山三吉神社
鶴の湯温泉 |



支部設立六十周年記念事業
御芳志及び負担金等
(総額六十二万六千円)

- | | | |
|--------|---------|-------|
| 十一万三千元 | 長岩嘉悦 | 佐藤和志 |
| 五万円 | 進藤 昭 | 佐々木民秀 |
| 三万円 | 保坂隆司 | |
| 二万円 | 今野昌雄 | 鈴木裕子 |
| | 佐藤英實 | |
| | 本会山行委員会 | |
| 一万五千元 | 藤原隆太郎 | |
| 一万三千元 | 鈴木要三 | 堀井 弘 |
| 一万円 | 奥村清明 | 鎌田倫夫 |
| | 石川祐子 | 柴田 勸 |
| | 安藤金榮 | |
| 六千円 | 佐藤 博 | 川口廣志 |
| | 大橋忠雄 | 三浦真六 |
| | 佐々木長秀 | 熊谷光子 |
| | 後藤浩二 | 藤田正義 |
| 五千円 | 福田光子 | 今野秀穂 |
| 三千円 | 若松謙三 | 眞坂洋一 |
| | 堀 等 | 佐藤助雄 |
| | 打矢道雄 | 伊藤康二 |
| | 柳田勇悦 | 若月 寿 |
| | 沼田敏明 | 高橋忠雄 |
| | 鈴木美代子 | 佐藤伸逸 |
| | 長岡幸則 | 佐々木悦子 |
| | 佐藤広文 | 歩仁内昌樹 |
| | 三浦昭男 | |

この金額は、六十周年記念誌と会報
本の作成等の記念事業に使用させて
いただきます。長岩様の御芳志は、横
断幕と記念手拭いに、進藤様の御芳志
は明田富士山の標柱建て替えに使用さ
せて頂きました。

長岩名譽顧問寄贈の横断幕
記念手拭い・ファイルの文字

会場への案内看板



懇親会で乾杯の発声をする
奥村永年会員

九月二十六日、午前十時に市のど真ん中にある、日本一低い明田富士山に会員有志が集い、老朽化した記念標柱を建て替えた。これは、平成十一年六月に、設立四〇周年記念の一環として植樹された桜(ソメイヨシノ)の標柱で、進藤名譽顧問より、設立六十周年記念として寄進して戴いたものである。

併せて、平成元年十二月に、当時の岡田支部長(故人)の音頭で山頂(三五m)に設置した「日本一低い富士山」の文字が薄れてしまったので、堀井副支部長から加筆と補修をしていただいた。

旧標柱の材料は私が、補助木一式、その他は佐藤(博)委員と鈴木(幸)会員(故人)が提供したもので、明田富士山の裾野に住居のある当時の佐藤(兼)支部長(故人)のもと、若月常務委員(当時)と今野(實)会員(故人)が地元町内会と交渉して実現したものである。

今回は、私がセメントと砂を持参し、三浦(昭)会員に木枠等一式を提供していただいた。

駐車地点から標柱を担ぎ上げ、穴を掘る等、作業は和気あいあいと、手出し、口出しで、無事に終了した。

療養中の進藤名譽顧問も参加して、山頂広場で名譽顧問の御芳志で用意したお弁当で昼食会。鈴木支部長から諸材料提供と作業への感謝があった。

好天に恵まれ爽やかなひと時を過ごし、午後二時頃散会した。なお、旧標柱の廃棄は三浦(昭)会員にお願いした。

明田富士山の標柱を建て替え
佐々木 民 秀

参加者

- 進藤昭 佐々木民秀
鈴木裕子 堀井弘 鎌田倫夫
佐藤博 高橋忠雄 川口廣志
石川祐子 三浦真六 安藤金榮
三浦昭男 会員外 島山秀雄



建て替えた標柱の前で
進藤名譽顧問を囲んで

支部会員執筆紹介

「山と友(共)に歩んで70年」

長岩嘉悦 著

B5版一四〇頁 非売品

著者の七十年にわたる登山記録をまとめたもの

おめでとうございます

佐藤和志氏

令和元年度

県文化功労章を受章

一九八一年、鶴の湯温泉を護り受け、露天風呂の整備に取り組み、日本の原風景を感じさせる宿に再生させ、乳頭温泉郷の観光スポット化に貢献。田沢湖・角館観光協会会長も務め、地域振興に尽力



佐々木長秀氏

令和元年度

旭日小綬章を受章

元県会議員として長年に渡り地方自治で社会に貢献

太平洋山歩道藪狩り参加

九月一日(日)、県自然保護課から依頼された、中央地区山岳協議会有志の藪刈りに参加。

赤倉岳分岐から馬場目岳赤倉分岐まで三・三km。

参加者 鎌田倫夫 佐藤博 安藤金栄 コース上の案内板は堀井弘作成

令和元年度山の環境整備事業

鎌田倫夫

令和元年度山の環境整備県民協働作業が行われた。

九月二十一日(土)午前八時、集場所の旭又は既に二十名ほどの関係者が集まっていた。

昨年の太平洋山中岳標柱設置に続き、今年馬場目岳遊難小屋の防腐塗装作業を行うことになった。

市内の社会人山岳会及び高校山岳部、県自然保護課のスタッフ合わせて三十三名であった。主催側から挨拶と行程の説明の後出発する。

二時間半程で山頂に着き、手分けして塗装作業を始める。参加者が多いので作業がはかどり、後から到着した高校山岳部員の手で間もなく終了した。

昼食の後、それぞれが下山し、午後二時半に解散式を行った。

整備された登山道ではあるが、太平洋山奥岳への歩道とは違い、利用者が少なく定期的に刈り払いが必要と思われる。



馬場目岳山頂の標柱の前で

支部参加者

- 佐々木民秀 鈴木裕子 堀井弘 鎌田倫夫 佐藤博 川口廣志 歩仁内昌樹 三浦昭男

支部合同会議

九月二十八日(土)～二十九日(日)、東京・四ツ谷主婦会館プラザエフで開催。

古野会長の挨拶で始まり、会務報告、支部会計報告の取扱い等について説明

特に、支部における会員名簿の発行についての法整備が必要であり、名簿の発行を控えてほしいとの事であった。(会報「山」十月号No.八九三号参照)

出席者 鈴木裕子 鎌田倫夫

会員数情報 平成三十年度末

◎会員数

四七〇名

名誉会員 八名

永年会員 四一七名

終身会員 三七名

通常会員 四〇二七名

青年会員・他 二八一七名

◎準会員 二二五名

秋田支部会員数

五十一名

(令和元年四月一日現在)

会務報告

◎役員会

九月十一日 午後一時から泉コミセンで開催。

・六十周年記念祝賀会の最終協議

・役員改選について

・その他

出席者

- 鈴木裕子 佐藤和志 堀井弘 鎌田倫夫 佐藤博 川口廣志 石川祐子 柴田勸 三浦眞六 安藤金栄 熊谷光子 後藤浩二

◎現地確認

十月十六日、大白森現地確認 鈴木裕子 鎌田倫夫 佐藤博 安藤金栄 三浦昭男

訃報

小野信也氏

昭和二十一年十月五日生 平成十四年七月日本山岳会入会 No.二二六八九

不慮の遭難により、令和元年十月八日逝去 (享年七十三才)

謹んでお悔やみを申し上げ、心からご冥福をお祈り致します 支部からは弔電をお届けいたしました



十月八日、北秋田市森吉町小又峽でガイド中に遭難しました。

今野昌雄顧問、佐藤和志副支部長、田口善信会員が現地へ赴き、十一日に発見となりました。

十一日午後、鈴木支部長、鎌田事務局長がご自宅にお悔やみに伺っております。

訂正

第一一三号 写真説明 俗離山を弥勒山に訂正